

体育学分野

【学士力の考察】（下線部を修正）

科学技術の発達は日常生活の利便性を向上させたが、その影響として、身体的には生活習慣病患者の増加とその低年齢化がおり、精神的にはストレスのセルフマネジメントの困難が生じ、さらに他者とのコミュニケーションに問題を抱える人が増加している。また、国際社会においてはスポーツを通じて様々な問題解決に取り組む社会的機能への期待が高まっている。

体育学教育は、これらの課題を認識し、その改善の方策を考え、何よりもそれらを実践するための能力の修得を目指している。すなわち、体育学教育の課題は、身体運動を介して健康で豊かな生活に寄与し、文化としてのスポーツを形成して伝承することによって社会の発展に役立つようにすることである。

このような背景から、身体運動と健康の関係性及びスポーツの振興と普及、スポーツを通じた社会の発展に関する専門教育に焦点をあてた。

【到達目標 1】（到達度の下線部分を修正）

1. 身体運動による健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる。

【到達度】

② 筋力、心肺機能、平衡性、体脂肪率、骨密度などのデータを数値的に把握し、それらの関係から身体運動の効果を多様な観点から評価できる。

【到達目標 2】（解説、コア・カリキュラムのイメージ、到達度①～④の下線部分を修正）

2. 身体運動の効果を体感することにより、心身ともに充実したライフスタイルを送ることができる。

ここでは、身体運動を通して体感される効果としての集中力・決断力・ストレスのセルフマネジメント力などを向上させる能力を修得させねばならない。その上で、心身ともに充実したライフスタイルが形成できることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

体育実技、スポーツ心理学、運動と健康、生涯スポーツなど

【到達度】

① 生活の中に身体運動を積極的に取り入れることができる。

② 身体運動により集中力を高め、それを持続できる。

③ 身体運動を取り入れることにより、ストレスをコントロールすることができる。

④ 身体運動を取り入れることにより、健康な体づくりに取り組むことができる。

【到達目標 3】（到達目標の下線部分を修正）

3. スポーツの競技に関する知識・技能を修得し、スポーツの振興・普及に活用できる。

【到達目標 4】（到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージ、到達度、測定方法を新規作成し追加）

4. 身体文化としてのスポーツが持つ社会的機能について理解し、多文化・多様性を尊重する社会の発展に貢献できる。

ここでは、スポーツには自己実現、自己と他者の尊重に基づく社会参画や相互理解を促進する社会的機能があることを理解させねばならない。その上で、スポーツを通じて国際化、多様化する社会の発展に貢献できることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

スポーツ原理・哲学、スポーツ倫理、スポーツ法学、国際スポーツ論、アダプテッド・

スポーツ論、スポーツマネジメント論など

【到達度】

- ① 自己実現、自己と他者の尊重、社会参画、相互理解と共生などのスポーツの社会的機能を理解できる。
- ② 国際的な視野に立ち、スポーツプログラムの提供やスポーツ振興・普及人材の育成、組織マネジメント、非スポーツ関連組織との連携などについて立案や実践ができる。

【測定方法】

- ①と③は、筆記試験、フィールドワーク、実習、レポート、グループディスカッションなどにより、知識の理解度を確認する。
- ②は、実習、卒業研究などにより確認する。